

平成 30 年度 アセンブリ II プロジェクト申請書

プロジェクト	患者・家族との対話を通して患者中心の医療をともに考える
主な活動場所	<input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院内 <input checked="" type="checkbox"/> 学外
担当教員	[所属・氏名] 学術研究支援推進施設 加藤 憲／医経 村田幸則／看護 水野暢子
内 容	[プロジェクトの概要] 患者・家族患者（メンター）と対話することにより、その生活を知り、そこから将来医療専門職となった際にどのような役割をチームの一員として果たすことができるのかを考える。
	[具体的な活動内容] 患者・家族患者（メンター）とメンバー全員が5回程度会う。毎回違うテーマについてあらかじめ準備された質問に加えて、各自が質問を考えて参加する。それについてメンターとメンバーが意見交換する（メンターとの対話でありインタビューではない）。その後、振り返りのための日誌をそれぞれが作成する。
	[活動に参加することで得られるスキル（社会人基礎力）] 会合の設定は学生が主体的に行うことにより、主体性や働きかけ力、実効性の向上が期待される。対話の中で、患者・家族の生活を知り、将来何ができるかを考えることにより、課題発見力や想像力の向上が期待される。テーマに沿ってメンターや他のメンバーと対話することにより、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力の向上が期待される。
	[受け入れチーム数] ※ 5～8名／1チーム 1 チーム 【プロジェクト全体で 5～6 名】
	[活動を予定している時間帯や日付など] メンバーとメンターが相談して日時や場所を決める。1回のミーティングは90分程度を想定している。
	[その他] 本プロジェクトは、患者対話型多職種連携教育に関する研究の一部として実施される。そのため、事前や事後アンケートの実施や日誌を含み、本プロジェクトの参加者とその成果物は研究対象となる可能性があるが、それらは参加者の同意に基づき行われる。